

# APIR Trend Watch

No. 41

## 天皇皇后両陛下によるベトナム公式訪問から

### 考える日越友好関係

APIR 研究員 CAO THI KHANH NGUYET

#### はじめに

2月28日から3月5日にかけて、天皇皇后両陛下によるベトナムへの公式訪問が執り行われた。この訪問の背景には日越の友好関係が歴史上最も良い時期に入っていることがあるが、今回の訪問こそがこの友好関係をより一層高いレベルに進化させたと評価される。しかしながら、「いくら楽しいパーティーでも終わる時がある」と同様、この友好関係を維持するためには、両国間で歴史への尊重や今後の関係維持への努力等が重要である。本稿では、今回の訪問に注目すべきことを振り返り、今後の両国間の関係における課題についていくつかのコメントを述べてみたい。

#### 1. 両陛下による訪問を振り返って

##### (1) 日程

日越の外交関係が1973年に樹立され、2018年に樹立45周年記念を迎えるが、両陛下による訪問は初めてであった。事前に、今回の訪問について両国の首脳会談で議論されるだけでなく、日本とベトナム以外のメディアにも注目された。日程は以下の通りである。

日にち	イベント	内容
1日目 (2月28日)	15:10にハノイに到着	
2日目 (3月1日)	ベトナム国主席府にて 正式な歓迎 ホーチミン廟への献花	国家主席との会談にて、クアン主席が今回の訪問が両国にとって歴史的な訪問であり、両国の信頼関係、相互理解、友好親善関係の増進に成果をもたらしたと評価した。
	ガン国会議長との会談	気候変動、環境保護、教育の重要性について議論した。
	晩餐会出席	天皇陛下が8世紀以降の両国交流の歴史を振り返り、両国国民の相互理解と友好の絆をさらに強める努力について述べられた。
3日目 (3月2日)	文廟 <sup>1</sup> にて元留学生等 と交流	天皇皇后両陛下が両国の掛け橋になっている人と交流された。元留学生に握手されたり、話しかけら

<sup>1</sup> ベトナム最初の大学として有名な観光スポットである。

		れたりしたことが、両陛下との距離感を感じさせず、最も印象的であった。
	在ベトナム日本人との懇談	在ベトナム日本人青年海外協力隊員との交流会において、日本語教育状況等について尋ね、励ましのお言葉を述べられた。
	残留日本兵士の家族との懇談	15名の残留日本兵士の家族との懇談を通じて、戦争により残された傷を癒したいお気持ちが伝わった <sup>2</sup> 。両陛下と会談した日本兵士の家族は大変感激したと発言した。
	国家大学傘下の自然科学大学生物学博物館を見学	生物学博物館にて1976年に陛下が新種を発見しベトナム側へ寄贈されたハゼ類魚 <sup>3</sup> と2012年に秋篠宮様から寄贈されたオナガドリについてのお話をお聞きになった。皇后様が大切に展示されていることへの感謝のお気持ちを表された。それに対して、同館長は科学の面においても、両国の友好関係が良好であることのシンボルであると述べた。今回の両陛下による訪問をきっかけとして、両陛下の科学への熱心さが、引き続き努力して保存することの支えになると信じているとも発言した。
	フック首相との面談、日本大使館主催の晩餐会	フック首相が今回のベトナム訪問は、今後も両国企業の協力強化に新たな弾みを与えるだろうという確信を表明した。両国の外交樹立45周年記念年に向けて、王室への招待を送った。
4日目 (3月3日)	チョン共産党書記長と親密な茶会	チョン書記長がこれまでの経済社会発展への貢献に対して感謝するとともに、両陛下の初めてのベトナム訪問は両国関係の新たな発展を促すものとなると強調した。これに対し、両陛下は、日本はベトナムの重要なパートナーであり、両国の関係を大事にして、友好関係を深めていきたいと発言された。
	フエ <sup>4</sup> に到着	
5日目 (3月4日)	フエの王宮の見学 フエ宮廷雅楽「ニャーニャック」 <sup>5</sup> の演奏を鑑賞	両陛下は王宮内でフエ宮廷雅楽「ニャーニャック」の演奏を鑑賞された。フエ遺跡保存センターのセンター長は両陛下がベトナムのニャーニャックと日

<sup>2</sup> 第2次大戦後、約700人の日本人兵士がベトナムに残留し、ベトナム人と結婚した後に、フランスとの戦争でベトナム同盟に協力した。彼らは1954年にベトナムに家族を残して、日本に戻った。

<sup>3</sup> 国家大学のホームページによると、1970年代、陛下はハゼ類の分類について博士課程で研究された時、ベトナム南部にあるカント省で新種のハゼを発見した。このうち新種のウロハゼが確認され、標本は原産国に置くべきとして同館に寄贈された。

<https://www.vnu.edu.vn/ttsk/?C2093/N20215/Nha-vua-va-Hoang-hau-Nhat-Ban-tham-Bao-tang-Sinh-hoc-thuoc-dHQGHN.htm>

<sup>4</sup> ベトナムの古都である。

		本の雅楽に関係があるということをご存知であることを評価し、両陛下による訪問が大きな荣誉であると述べた。
	ファン・ボイ・チャウ <sup>6</sup> 記念館見学	ファン・ボイ・チャウ氏の孫であるファン・ティエウ・カット氏と面会した。陛下は同記念館がベトナムの独立に関わった日本との関係を伝えていくことは大変喜ばしいことだと述べられた。
	フエにて記者会見	会見で、宮内庁の高島肇久報道官が天皇皇后両陛下はフエご訪問に深い印象を受けられ、同市の行政府と市民の温かいもてなしに感激されていると述べた。
	国際協力機構(JICA)のボランティアやベトナム在住日本人と面談	ベトナムの伝統服であるアオザイを身にまとった日本人と親密に言葉を交わされ、アオザイへの興味深い気持ちを見せられた。
6 日目 (3月5日)	12:15 タイへ出発	

出所：各資料から作成。

## (2) 今回の訪問からの印象

### 両陛下による印象

今回の訪問は両国の国民の相互理解と友好関係を一層発展させるものとし、大変にみのあるものであったと評価されていた。最近、ベトナムでは米国のオバマ大統領(2016年5月)と英国王室のウイリアム王子による訪問(2016年11月)を実現することができた。いずれも注目されたが、それよりも今回の訪問で両陛下がお見せになったやさしい、友好的な姿が印象に残っている。両陛下による演説や発表はなかったが、訪問中の両陛下のお姿こそ、国と国の境を越えるだけではなく、天皇と一般市民という社会的な立場の違いを感じさせなかった。慈悲深いまなざし、温かい握手、親切に耳を傾けるお姿が言葉と文化の違いを超えて、ベトナム国民と両陛下とのコミュニケーションを円滑にさせた。そして、このためであろうか、在ベトナム日本人とベトナム人が道端で、両国の国旗を振って、尊敬を込めてお辞儀した。

また、今回の訪問をきっかけに、両陛下についての情報がさらにひろめられた。例えば、美智子皇后による子育て法、両陛下のテニスコートでの出会いなどマスメディアで詳しく報道された。情報がインターネットに流れたときに、ベトナム人読者は積極的に受け取り、コメントにより自分の敬意を表した。例えば、「両陛下ベトナムによろこそ」、「両陛下がまるで昔話に出てきた神様のような」、「いつまでもお元気になさっ

<sup>5</sup> ニューニャックは日本の雅楽と姉妹関係といわれており、国連教育科学文化機関(UNESCO)により世界無形・口承伝統文化遺産として認定された。

<http://vovworld.vn/ja-jp/ニュース/天皇皇后両陛下古都フエをご訪問/518087.vov>

<sup>6</sup> ファン・ボイ・チャウはフランス植民地時代の1884年に生まれ、フランスと戦争するために、武装・暴力革命と主張して、日本の援助を求めするために、1905年に日本に渡った。批判された時に、武装蜂起から人材育成へ主張を変更し、ベトナムの青年に日本への留学を呼びかけ、2年間で約200名を日本に留学させた。帰国後、「東京義塾」学校を設立したり、「東遊運動」を設立したり、反仏ベトナム民族独立運動を続けた。また、日本にいる間に、当時医者である浅羽佐喜太郎氏からの支援を受け、浅羽佐喜太郎氏が亡くなったことをわかった時に、浅羽佐喜太郎公記念碑を建設した。

詳細は <http://www.mamoru-t.net/asabasakitarou.html> 参照されたい。

てください」、「両国の友好関係が永遠に続くように」、「両陛下が訪問して下さったのはベトナム人の誇りである」、「両陛下による訪問は春の間に桜が咲くかのようだ」等である。

### これまで報道されない両国関係が公開

両国の外交樹立は 1973 年からであるが、今回の訪問をきっかけに、マスメディアで報道されていない両国関係についての事実が公開された。一点目は、両国の関係が 8 世紀から始まったことである。当時、奈良での大仏開眼の儀式において、ベトナムの中部にあった林邑(りんゆう)の僧侶・仏哲が舞を奉納したことが天皇両陛下の話から伝えられた<sup>7</sup>。二点目は、残留日本兵の家族がベトナムで市民と共に生活していることである。その事実が両陛下による懇談により注目され、戦争が残した傷あとと平和の価値を更に意識させられた。

その他、今回の訪問を通じて、これまでの両国間の出来事、例えば、陛下から寄贈された新種のウロハゼと秋篠宮様が贈られたオナガドリ、また天皇陛下と面談できた最初のベトナム人<sup>8</sup>等がはじめに報道された。これらを通じて、両陛下のイメージがベトナム国民により近くなり、両国の国民の相互理解がさらに促進させられたと考えられる。

これらを振り返ると、両国間の関係が単に投資、貿易から成り立っているのではなく、深い歴史を持つことがわかってきた。その長い歴史から、今日の友好関係が国民同士の交流によって形成されてきたのではないかと考えられる。

## 2. 今後の行方と課題

今日、日越両国間の関係が歴史上最も深まっている時代を迎えている。あらゆる分野において両国間の交流や協力が力強く促進されている。外交の面においても、両国の首脳レベルの交流が緊密になっている。特に、安倍総理大臣は就任以降ベトナムを最も重視する国の一つであると見ている。2014 年に、「アジアにおける平和と繁栄のための広範な戦略的パートナーシップ」関係の促進と深化に関する日越共同声明が締結され、2015 年に、日越関係に関する共同ビジョン声明も採択された。一方、ベトナム政府にとっても、日本が最大の援助供与国であり、最も信頼できるパートナーである。経済交流の面において、ベトナムは日系企業の魅力的な投資先となり、2017 年 3 月の時点では、ベトナムへの直接投資額の内、日本からの投資額は第 4 位である。貿易の面において、日本はベトナムの第四番目の貿易パートナーとなり、日本ブランドの商品がベトナム市場で愛用されている。教育と文化交流の面においても、日本語教育は大学から小学校まで普及し、日本の文化と観光情報がマスメディアによく紹介されている。

以上のように、長期間かつ多くの分野にわたる交流や協力によって構築された両国の友好関係が今後も絶えず進展されていくことが考えられる。その交流や協力を推進するためには、架け橋となる人材の存在がカギとなる。その観点からも、大きな割合を占める在日本ベトナム人留学生と技能実習<sup>9</sup>をめぐる課題は最も注目すべきところである。

---

<sup>7</sup> 宮内庁、天皇皇后両陛下 ベトナムご訪問時のお言葉。

<sup>8</sup> チャン・ゴック・フック氏は、日本で Metran 社(医療機器開発製造・販売)を創業した越僑である。「第 5 回 渋沢栄一ベンチャードリーム賞」大賞、「ものづくり日本大賞」経済産業大臣賞を受賞。2012 年 7 月には陛下の Metran 視察行幸を賜った。

<http://news.zing.vn/chuyen-cua-chu-hang-nguoi-viet-dau-tien-duoc-don-nhat-hoang-post724364.html>

<sup>9</sup> 2016 年 10 月末の時点では、日本の外国人労働者に占めるベトナム人は 172,018 人で、第二位となっている。在日本トップ 3 の外国人雇用状況(図表1)をみると、中国やフィリピンと異なり、ベトナム人労働者には、資格外活動(留学生のアルバイト等)や技能実習の割合が圧倒的に高い。

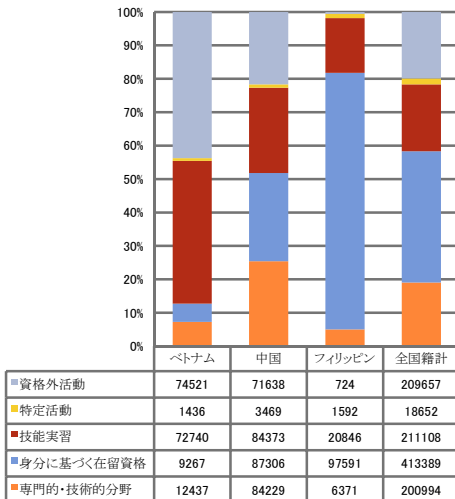


### (1) ベトナム人留学生をめぐる問題

近年、ベトナム人留学生数が急増してきた。ベトナム教育訓練省のデータによると、2016年には約13万人のベトナム人留学生のうち、日本への留学生数が約3万8千人と、全体の約30%を占め、オーストラリア(約3万1千人)と米国(2万8千人)を抜き、留学先の第一位となった。日本学生支援機構の調査結果から見ても、ベトナム人留学生数は2006年に2,119人で、第5位とであったのに対して、2014年には26,439人と、中国に次いで第二位に上昇した。もともとベトナムが親日国であったうえに、以前よりも簡単に日本へ留学できるようになった。このため、ベトナムでは、2013年以降、所得階層を問わずに誰もが私費で日本に留学するというブームが起こった。この私費留学生の増加は両国間の関係強化にさらに寄与すると考えられるが、メリットと同時に多くの課題をもたらしている。

そこで、なぜこの日本への留学ブームが社会問題となったのかを考えたい。この問題の背景には、「新型留学」、または「新型出稼ぎ」という潮流がある。「新型留学」というのは学習ではなく就労を目的として留学することであるため、「新型出稼ぎ」とも呼ばれている。法律上は、留学生であれば、資格外活動として、週28時間働くことができる。しかし、ベトナム人留学生の場合、留学するために、留学コンサルティング会社等にかなりの金額を支払ったため、友人や銀行等に借金を抱えていることは普通である。そこで、来日後まずは借金返済を優先し、学習を二の次にする学生が少なくない。さらに、収入を増やすために、週28時間以上就労したり、肉体的に負担が大きい仕事や夜間帯の仕事をする学生も多い。このような過酷な生活から、学校で知識を得るところか、過労で命を落としたケースも見られるし、組織的な犯罪への関与にもつながっている。

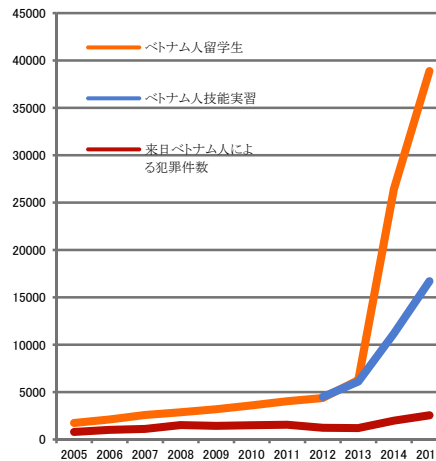
図表1：日本における外国人雇用上位3か国の状況



出所(図表1)：厚生労働省の外国人雇用状況の届出状況(平成28年10月末現在)

出所(図表2)：ベトナム人留学生に関して、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)外国人留学生在籍状況調査；ベトナム人技能実習について公益財団法人国際研修協力機構(JITCO)；来日ベトナム人による犯罪件数について警察庁による国籍等別刑法犯検挙状況に基づいて筆者が作成。

図表2：日本におけるベトナム人の留学生・技能実習生・犯罪件数の推移



### (2) ベトナム人技能実習をめぐる課題

外国人技能実習制度は開発途上国の人材の育成を行うために技能等を習得してもらい仕組みである。人材不足に直面する日本にとって、技能実習生は必要な人材であり、生産年齢人口が豊富なベトナムにとっても、技能実習制度は雇用の幅を広げ、労働者が収入を得られるというメリットがある。そこで、近年ベトナム

ナムからの技能実習生数が堅調に伸び、2016年には中国に次ぐ第二位にまで増加してきた。しかしながら、Win-Winの関係であるはずにもかかわらず、違法滞在や犯罪の増加が問題となっている。

そこで、なぜ技能実習による違法滞在や犯罪が増加してきたのかを考えたい。多くの場合、渡日のために大きな借金を抱えたものの、過酷な労働環境にもかかわらず、賃金が安く、思っていた以上に物価が高いため、蓄財につながらないという課題に直面している。また、より専門的な技術を学びたいのに、実際は単純労働が多く、未来のキャリアパスにつながらないというミスマッチング問題も出てくる。その結果、現在の労働環境に不満を抱き、失踪から不法滞在や犯罪につながるケースが多く見られている。

図表2で示されるように、日本へのベトナム人留学生や技能実習生の数が増えれば増えるほど、犯罪率が高くなるという事実は両国の友好関係にとって残念なことである。加えて、犯罪率が高くなるという事実は、対越・対日感情の変化にもつながる。今後両国間の友好関係を維持するためには、ベトナム人留学生や技能実習生による不法滞在と犯罪増加の問題解決次第といっても過言ではないだろう。

## おわりに

大手広告代理店の電通が実施した「ジャパンプランド調査」によると、日本に対する好意度が世界20カ国・地域中、ベトナムはタイに次いで第二位であった<sup>10</sup>。また、APIR独自の日本企業の国際競争力比較調査によると、日本企業に対する評価が高いアセアン6カ国（インドネシア、フィリピン、シンガポール、ベトナム、タイ、マレーシア）の中では、ベトナムは第一位であった。このように、ベトナムは世界で一番日本が好きな国と言えるほど親日の国である。こういった背景で、両陛下がベトナム公式訪問をされたことはベトナム国民にとって大きな誇りとなると同時に、両国関係にとってもすばらしい出来事であった。歴史から見れば、両国関係は単なる経済協力のみならず、国民同士の交流によって成形されてきたことが明らかである。言い換えれば、他の国とは異なり、両国間で国民同士の結びつきが強い。その貴重な絆を維持するためにも、今後は、私費留学生や技能実習生をめぐる問題を解決する必要がある。具体的には、私費留学生に関しては、渡航目的を学問や語学の習得等に限定し、奨学金制度を拡充するとともに、留学生側も事前調査と計画によりカルチャーショックに備えるべきだと考える。また、技能実習制度にも日本国内での短期実習制度を導入するなど、ミスマッチを解消する改善が必要なかもしれない。

<APIR 研究員 カオ ティ キャン グェット、contact@apir.or.jp, 06-6485-7690>

- ・本レポートは、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・本レポートは信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された内容は、今後予告なしに変更されることがあります。

<sup>10</sup> 株式会社電通「ジャパンプランド調査 2016」<http://www.dentsu.co.jp/news/release/pdf/cms/2016088-0726.pdf>